

特別支援教育の視点を取り入れた体育科の授業改善

駒ヶ根市立赤穂東小学校 特別支援教育部会

学校目標：「かしこく、やさしく、たくましく」

重点目標：「自分の考えを持ち、自分で判断し、自分から動き出す」子どもの育成

特別支援教育部会研究テーマ

「全ての子の主体的・協働的な学びを保障した授業づくり ～個別の指導計画をもとにした支援と合理的配慮(UD化)～」

本校で大切にしている特別支援教育の視点

○授業のUD(ユニバーサルデザイン)化

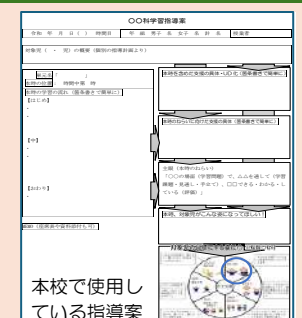
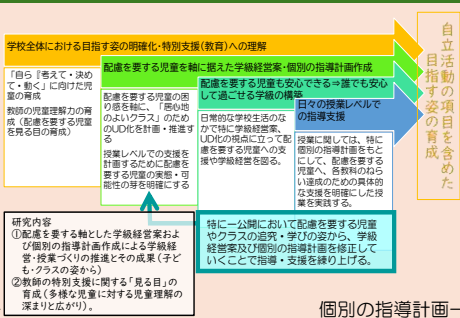
全ての子どもたちが学習活動に参加しやすいように、あらかじめ授業や学習環境そのものをデザインする「学びの基盤構築」

○個別の指導・支援

個々の子どもが抱える困り感を解消し、授業のねらいを達成できるよう支えるための、一人ひとりの実態に応じた指導

すべてのクラスで対象児を一人決め、「個別の指導計画」を作成し、計画をもとに2つの視点での授業づくりを行う。

研究のイメージ→



第4学年 表現運動「リズムダンス」

- ・ 学習の流れの明確化とパターン化
- ・ 思考を促す視覚支援
- ・ 意図的なグルーピング
- ・ 肯定的な働きかけ
- ・ 選択肢の提供

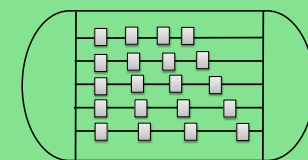


- ・ 自己決定の尊重
- ・ 心理的安全性を高める授業構成

当初は硬い表情でポーズを一つとるだけだったRさんが、単元を通して「複数のポーズと笑顔」を見せるようになり、終盤には自らアイデアを出すまでに成長した姿を見ることができた。

第5学年 陸上運動「小型ハードル走」

- ・ 学習内容の視覚化
- ・ スモールステップでの技能習得
- ・ 小型ハードル走記録シート



- ・ 選べるコースによる追究
- ・ 成長を可視化する評価方法
- ・ 協働学習を促す仕組み



- ・ 多くの班で「班ののびポイント」がプラスの値を示し、チームとして協働的に記録向上に取り組んだ
- ・ 「チームのふり返し」に記された記述の質的な変化

成果：「授業のUD化」という土台の上に「個別の指導・支援」を構築する二段構えのアプローチが、特別な支援を必要とする子どもの学びを保障するだけでなく、クラス全体の学習意欲と主体性を引き出す上で大きな力を持つこと。

技能の習得や表現の楽しさを味わうといった体育科の目標達成にとどまらず、本校の重点目標である「自分の考えを持ち、自分で判断し、自分から動き出す」子どもの姿の育成に直接的に貢献したと言える。

課題：「支援のあり方の深化」「子どもたちの自走を促す支援」「研究テーマの発展」